

まほらいな市民大学の様子

令和3年12月16日（木）

## 『よりよい生き方を求めて』

講師 常福寺住職 松田泰俊氏



長谷溝口にある常福寺の境内には、福寿草、枝垂れ桜、牡丹など季節ごとに多数の花があり、「花の寺」として親しまれています。松田住職さんからは、『唯聴自然聲～花の教え～』の話や、道元、良寛などの先人の教えについての話がありました。

芥川龍之介の小説「蜘蛛の糸」の話、『自未得度先度侘』（道元禅師）、『花無心蝶招 蝶無心花尋』（良寛）、無常・三毒の話、千利休と秀吉の話などわかりやすく話がありました。美しい花の写真とともに、花の終わりの様子を『櫻散舞』『牡丹散崩』『椿散落』『紫陽花散留』『萩散零』『朝顔散凋』とあらわし、「みんなちがってみんないい」「花はただ咲いて、散ってゆくからいい」という詩についての話もありました。「自然のありのままをみて、感じて、自然の声を聴いてみよう。自然界・人の世界は常につながっている。自然や子どもは真の世界を教えてくれる。そしてそれぞれに尊いいのちがあり、そのいのちを精いっぱい生きている。」など心にしみる話がありました。「伊那の大自然の営みの中で、知らず知らず純粋な世界で生きている私たち。これからの人生を豊かに楽しみたいものである。」とまとめられました。

学生からは、「仏教の教え、先人の教え、自然界に咲く花の一生の教え、無常の世界にどう生かすか考えさせられた。」「人間ひとりひとりちがってよいことを皆が理解できればもっと明るく平和になるだろうと思った。」「花は人を楽しませようと咲くわけではないが、受け取る人の心で深い意味を持つ。人の心のありようについて考えさせられた。」「すべてのもの、大自然、花、動物、人への愛の深さを感じました。心洗われる時間でした。」といった感想がありました。